

ラオス在住邦人の医療対策 (南部版)

※ ここに掲載の情報はラオス、タイの医療関係者、知見をお持ちの方などにヒアリングしたものを纏めていますが、随時状況は変化しますので、あくまで参考とし、各自準備・対策を講じて下さい。

2020年2月現在 (Vol 1)

医療処置の場所(国)	地区	移動手段	医療機関名称	対応可能医療範囲	主要連絡先	海外医療保険使用可否	救急車 有無	注意事項・コメント	その他
ラオス	サバナケット	陸路 (一般車両)	Savanakhet Medical Diagnostic Center (SMD)	・一般診療 (軽症) ・外来のみ。夜間、休日対応不可 (24時間救急は県病院のみ) ・血液検査 ・レントゲン、薬局、エコーあり	02055374743(院長Dr.Bountha Chansophou)	可	無	・院長は外科医、他Dr計2名 (1名英語可) 最低限の血液検査、レントゲン、エコーのため発熱、下痢、風邪等の日常的な傷病での受診可。 ・重症時は県病院、またはムクダハンの受診を勧める。紹介状の記入可。海外旅行保険取り扱いあり。	・サバナケット県では「サバナケットレスキュー」というボランティア団体が救急搬送を提供 (電話 1629)。ただし、活動地域はカインボンペンシンのみ。なお、タイ・ムクダハンの希望するプライベートクリニックへの搬送も可能。
		陸路 (救急車、一般車両)	サバナケット県病院 (2019.2調査)	・一般診療 ・一部予防接種 (狂犬病ワクチンあり) ・24時間救急対応可	041-212231 (ER) 041-212171 (代表)	可 (要確認)	有	・サバナケットにおいて24時間救急対応できる病院は県病院のみ。 ・医療レベルは初期対応程度のため、緊急時は一時処置にどめ、状態が落ち着いたら救急車でムクダハンの搬送する事を勧める。 ・病院の救急車で友好橋を24時間越境可能。シアラムが容易だが、基本は県立ムクダハンの病院へ搬送。	・サバナケット県とタイのムクダハンの間で国際医療協力に係る覚書 (MOU) を締結済み。このため、県病院及びサバナケットレスキューの救急車であれば24時間越境可能。
	チャンバサック	陸路 (救急車・一般車両)	インターナショナルクリニック (私立)	・一般診療 (軽症) ・レントゲン、CTあり ・健康診断可 ・24時間救急対応可	031-5587 8555	可	有	・チャンバサック県病院の敷地内にあるベトナム系のプライベートクリニック。ベッド数40床、スタッフはほぼベトナム人、ラオス語可、英語ほぼ不可。 ・国境を通過できる救急車を所有するバクセ唯一のプライベートクリニック。過去エア・アンビュランスでの外国人の搬送経験あり。 ・緊急時は、一時処置にどめ救急車でウボンラチャタニへの搬送を勧める。	・チャンバサック県とタイのウボンラチャタニ県は国際医療協力に係る覚書 (MOU) を締結済み (サバナケット県 = ムクダハンの覚書とは内容が異なる模様)。 ・ラオスの救急患者のタイ側への紹介については、2020年2月から新ルールが適用となり、直接搬送不可。所定の紹介状を持参し、救急車でラオス側国境へ患者を搬送、その先タイ側国境で患者を受け渡す。タイ側救急車は国境から国境最寄りのシリントン病院へスクリーニング目的でいったん搬送、そこから指定病院へ搬送となる。
		陸路 (救急車・一般車両)	チャンバサック県病院 (公立)	・一般診療 ・レントゲン、エコー、CTあり ・狂犬病ワクチンあり ・24時間救急対応可	031-212018	可	有	・JICAによる支援実績のある県病院。医療レベルは初期対応程度のため、外国人は上記、インターナショナルクリニックの方が救急車利用や入院の観点から利用しやすいと思われる。緊急時は、一時処置にどめウボンラチャタニへの搬送を勧める。	・バクセ市内→ワンタオ国境 (ラオス側) チョムメック国境 (タイ側) 経由ウボンラチャタニ市内まで70km、約1時間30分要する。
タイ	ムクダハン	陸路 (救急車、一般車両)	ムクダハンインターナショナルホスピタル (私立)	・一般診療 ・手術 ・ICU ・CT、心エコー、胃カメラ可	+66-42-611222 (24時間対応)	可、SOS,AXAカード等各種海外保険取扱	有 (22時以降はタイ側で救急車が待機)	・サバナケット友好橋 II から約30分程度。ラオス人患者が40%を占めるベッド数60床のプライベートクリニック。軽症患者 (デング熱、単純骨折など) の入院・受診可。タイ語、ラオス語可 ・緊急時は、サバナケット県病院ないしサバナケットレスキューの救急車で24時間搬送可能。 ・交通事故など頭部外傷などの重症者は、公立ムクダハン病院がウボンラチャタニまたはバンコクへの移送を検討。	●タイ陸路入国隔年2回制限との関係： 一般旅券所持者はタイの数次入国査証をあらかじめ取得することが望ましい (急症は隔年2回以上でも通してくれることになっているがトラブルの可能性あり)。 ●友好橋 II サバナケット、ムクダハン国境:開門時間 (6時~22時)。
		陸路 (救急車、一般車両)	ムクダハンパブリックホスピタル (公立)	・一般診療 ・手術 ・ICU ・CT、MRIあり	+66-42-615247 (24時間対応)	可、各種海外保険取扱	有 (22時以降はタイ側国境で救急車が待機)	・ベッド数約400床、ムクダハン最大の公立病院。交通事故やデング熱等重症患者の対応可。ラオスのサバナケット県病院からの紹介患者が多い。外国人専用外来がありワンストップでサービスが受けられる。 ・ムクダハンでは、私立より公立病院へ搬送する方が設備、医療スタッフも充実しており適切な治療が受けられると評価。 ・脳神経外科あり頭部外傷治療可。心筋梗塞など心臓カテーテル可。 ・重症者の場合はBKKがコンケンへの搬送を検討。	閉門後の緊急搬送について： 緊急時については、救急車での搬送のみ可。一般車両不可。 ① 通行条件：救急車・本人・同乗者(バスポート(又はボーダーパス)オリジナル及びカーブク(車のボーダーパス、1年有効)が不可欠。 ② 緊急時、患者が意識不明でバスポート不所持の場合の越境については、ケースバイケースだが可能。ラオス側→タイ側の国境事務所へ患者情報の伝達。患者本人の写真撮影、キヤンティレター※のみで通行可能。後日(退院時)国境通過時にタイ側、ラオス側へ事情を説明し正規手続きをとり再び越境可。大使館の側面サポートが必要な場合は020-5551-4891に連絡のこと。 ③ 急患で国境を至急通過する必要を職員に説明する必要あり。ラオス語のできる者の同行が望ましい。
	ウボンラチャタニ	陸路 (救急車、一般車両)	Ubonrak Tonbury Hospital (私立)	・一般診療 ・手術 ・ICU ・CT、MRI	+66- 45 429 100(24時間対応) (英語、ラオス語可) URL:http://www.ubonrak.co.th/	可、各種海外旅行保険取扱 (キャッシュレスサービス可)	有 (22時以降タイ側国境で救急車が待機)	いと思われる。ベッド数100床。外来患者470人/日。脳外科あり頭部外傷等対応可能。バクセで緊急時は優先的にこちらへの入院搬送を勧める。 ・2020.7/パートナーオープン予定のため、心筋梗塞等対応可能となる。 ・バクセからの患者紹介搬送に関し、救急車で患者搬送は可能。しかし、直接、希望病院へ搬送できない。手続きについては右記参照。国境閉鎖後も同様の手続き。 ・BKK、バムルロード病院、Sunpasit thirasong Hospital (ウボンラチャタニ・公立) が主な提携病院	※救急車の搬送時、患者の所属組織による身分保証レターの携行が必要。なお、ラオス国籍の保証人の同乗でも可。保証内容は入院した場合、本人に代わり、退院時、イミグして正規出国手続きを行うこと。 ●ワンタオ国境：開門時間 (8時~20時)
		(陸路・一般車両)	Rajavej Ubonratchatani Hospital(私立)	・一般診療 ・手術 ・ICU	+66-45-280050-60 (24時間対応) (英語、ラオス語、カンボジア語) URL : www.rajdevubon.com	各種海外旅行保険取扱	有	・ウボンラチャタニに4つあるプライベート病院の一つ。ベッド数100床。外来患者200人/日。上記のUbonrak病院より医療サービス、設備面でやや劣る印象。MRIなし。 ・脳外科の第一人者Drが常駐しており、脳外科だけの手術であれば対応可能。 ・バクセからの救急時の患者搬送手続きについては右記参照。 ・BKK、コンケンなどへの移送アレンジ可能。	① タイ側へ緊急搬送したい場合：8時から19時まで搬送可。チャンバサック県病院またはインターナショナルクリニックの救急車での搬送手続き等がスムーズ。 ② 所定の患者紹介状を持参しタイ国境検疫官がチェック後、タイ側国境に待機している救急車で国境側のシリントン病院 (パブリック) へいったん搬送→スクリーニング後、希望または指定病院へ搬送。 ③ 国境閉鎖後：ワンタオではほとんど事例がない模様。よって、病院側が紹介状等必要書類を準備し、ラオス側、タイ側の国境事務所へ連絡し進捗許可をとるための手続きに時間がかかる事が予想される。

＜ラオス駐在者の医療に関する注意点＞

- ① 海外医療保険等を保有し、緊急時に金銭問題で医療が受けられないことの無いよう留意。診察、患者受入れ前に支払い能力を確認される場合が多い。現金、クレジットカードの場合、大よそUS\$3000程度の手続き能力があること。緊急搬送で活用可能なSOSカード等携行が有効。(緊急搬送でチャーター便使用など、医療費用はMax 数千万円かかることもある)
- ② タイ側への越境搬送(特に夜中) は、国境により条件が様々。有事に備え事前準備、取り決めておくことを推奨します。
- ③ 緊急医療としない様、予防接種、予防医療を推奨。医療関係者からは医療後発国のラオスでは大人の免疫が付いていない小児の滞在は特に注意が必要と言われています。